

道徳科学習指導案

主題名「開発に願いをこめて」〔学指要領：A 希望と勇気、努力と強い意志〕

令和6年11月22日（金） 第3校時 6年1組教室
大泉町立東小学校 6年1組 指導者 中島 啓介

I 主題設定の理由

1 価値観

児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の夢や目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことをしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。

しかし、この時期の児童は、自信がもてなかつたり思うように結果が出せなかつたりして、夢と現実との違いを意識することもある。このような時期であるからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力を育てる必要がある。

そこで、希望をもつことの大切さや、希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えさせたい。困難に負けず、くじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れることを通して、児童の中により積極的に前向きな自己像が形成されるようにすることが大切である。

また今後、この内容項目は中学校においては、「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」へと発展する。

2 児童観

本学級の児童は、1学期の道徳「夢に向かって―三浦雄一郎―」の授業で、目標をもって、その達成に向けて努力し続けることの大切さについて気づくことができた。しかし、実際の様子を見ると、目標を立てても短い期間しか努力を継続することができなかつたり、立てた目標を意識せずに生活してしまつたりしている様子が見られる。これは、自分が絶対に達成したいと思えるような目標を見つけられていないことや、困難なことがあると自分にはできないと諦めてしまう心の弱さ、自分を支え応援してくれる周囲の人の存在に気づけていないことなどが原因であると考えられる。

これらのことから、本授業を通して、自分の目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力しようとする実践意欲と態度を育てたい。

3 教材観 教材名「技術で『障がい』をなくしたい - 遠藤謙 - 」(出典：ゆたかな心 光文書院)

遠藤謙さんは、義足の開発研究者であり、「技術で障害をなくしたい」という信念をもって、開発に取り組んでいる。遠藤さんはその目標を達成するために、自分の知識や技術だけでなく、自分にはない専門性をもつ人と協働し、より広い視点から研究を進めている。本教材では遠藤さんが開発した3種類の義足に関するエピソードが紹介されている。

本教材は、遠藤さんの、ひとつの目標を達成して満足するのではなく、新たな目標に向かって努力し続ける生き方に触れることのできる教材である。

遠藤さんが努力をし続けることができているのは、遠藤さん自身の必ず目標を達成したいという強い意志が根底にある。しかし、それだけでなく、自分を支え助けてくれる人間の存在や、自分の努力が多くの人に喜びや希望を与えることができるという達成感、成就感が、遠藤さんの努力し続ける原動力になっていることも、本教材からは読み取ることができる。

これらのことから本教材は、児童が「目標の達成を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力をもつためにはどうすればよいか」を考えるために適切な教材となっている。

II 本時の学習

1 **ねらい** 遠藤さんがなぜ目標に向かって努力し続けることができるのかを考えさせることを通して、目標に向けて困難があってもくじけずに努力し続けようとする実践意欲と態度を育てる。

2 展開

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童(生徒)の意識 [S]	○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分) S : 目標を立てても、達成しないままになってしまうことが多いな。どうすれば努力し続けられるのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <めあて> 「努力し続ける原動力」とは何かを考えよう。 </div>	○今の自分たちが「目標に向かって努力し続けることができるか」について、問題意識をもつことができるように、事前アンケートの結果を提示し、どうすれば努力をし続けられるようになるのかを問いかける。【★提示】 ○義足開発の仕事のイメージをつかみやすくするために、遠藤さんが開発した義足の画像を提示する。【★提示】
2 教材文の範読を聞き、内容について確認する。(10分) 3 遠藤さんがなぜ努力し続けることができたかをふせんに書き出し、交流する。(15分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◎「遠藤さんの『努力し続ける原動力』とは何でしょうか。」 </div> S : それだけどうしても叶えたい目標だったのかな。 S : 自分の頑張ったことの成果が出てうれしかったんじゃないかな。 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(10分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◇「目標に向かう中で困難にぶつかっても、頑張りを続けるために大切なことは何でしょうか。」 </div> S : 遠藤さんのように強い意志をもつことが大切だな。 S : 自分は初めのうちは頑張ることができるけど、途中でやめてしまう。自分が頑張ることで喜んでくれる人がいれば頑張り続けることができるかも。	○交流する場面を焦点化できるように、遠藤さんが三種類の義足を開発するまで努力し続けられたのはなぜかを考えながら聞くように促す。 ○遠藤さんが、困難があってもくじけずに努力し続けたことをとらえられるように、3種類の義足の開発にそれぞれどのような苦労があったのか、なぜそれを乗り越えられたのかを問いかける。 ○困難があっても努力し続けるために大切なことは何かを考えられるように、班ごとに書き出したふせんをグルーピングしながらまとめさせる。 ○事前アンケートから自分が諦めてしまうのはどのような時かを想起させ、その時に諦めないようにするにはどうすればよいか、どんな思いや考え方があれば努力し続けられるか、自分たちに足りないものは何かを、遠藤さんの生き方と比較しながら考えるよう促す。【★提示】 ○交流したことを班ごとに発表させたり、道徳的価値に迫る児童の考えを意図的に指名して紹介したりすることによって、考えを広げたり、深めたりできるようにする。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(5分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <振り返り> S : 今までの自分は、目標を立てても努力し続けることができなかった。これからは遠藤さんのように、困難に負けずに強い意志をもって努力し続けられるようにしたい。 </div>	○自己の生き方につなげられるように、授業を通して目標に向かって努力し続けることについて、新たに考えたこと、気づいたことを記述するよう促す。

◆評価の視点

発言・ふせん・ワークシートの記述から、「目標に向けて困難があってもくじけずに努力し続けようとすることについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。